

# ボランティア活動報告

今年度は、地域に開かれた学院運営を進めるため、積極的に地域貢献をしていく取組を進めています。

5月にはまず、職員が江差町で実施している地域づくりの会合に参加してきました。そこに参加していました江差高校の教頭先生から情報提供をいただき、6月には町内の観光名所である「かもめ島」の海浜清掃に、職員、学生が参加し、地域の方々とも交流することができました。

7月には3年ぶりの開催となりました「江差かもめ島まつり」の来場者数調査やアンケート調査について、江差観光コンベンション協会から依頼があり、学生が参加しています。最初は、なかなか来場者に声をかけることが難しかった様子ですが、時間が経つにつれ積極的に声をかけ、多くの方にご協力をいただくことができました。また、北海道警察学生ボランティア（Jumpers）として、かもめ島まつりでの街頭啓発活動にも参加しています。

先日は、江差高校から体育祭の救護ボランティアの依頼があり、職員、学生が参加しました。天気予報と違い、大変暑い中での実施でしたが、大きな怪我をする人などもなく無事に終了しました。

ボランティア活動は、地域貢献はもちろん、コミュニケーション力や自己肯定感の向上にもつながります。現在の活動は、臨地実習の関係で1年生が中心となっていますが、これからも学生が参加できる時は、積極的に地域に出向き、地域の方々との交流を図っていききたいと思います。（副学院長・大島 慎也）



かもめ島の海浜清掃

# 夕音（しおね）寮から

平成10年の開学から20年以上が経過し、暖房や設備等にも不具合が出てきました。これまでも必要な修繕を実施し、網戸などちょっとしたことは器用な公務補が修理してきましたが、今年度、学院と寮の暖房設備を大幅に改修することとなりました。すでに、使用していない場所から工事を始めていますが、夏期休暇中には寮の各部屋の工事も進めていきます。工事期間中、学生の皆さんにはご不便をおかけしますが、ご協力よろしくお願いします。

また、近年、入学生の減少とともに寮生も減ってきており、学生からは、共有スペースの掃除当番などに対する負担感が聞かれるようになりました。副学院長（事務）と寮担当の教員、寮自治会役員とで、困っていることや改善方法などを話し合い、掃除の回数や時間帯を見直すなど、色々工夫しているところです。学生から要望の多かった洗濯機・乾燥機の更新も、6月に2階と3階、それぞれ1台ずつ更新しました（1台は中古ですが）。食事内容に係る要望も、寮自治会がアンケートを作成し、今後、とりまとめた結果をもとに、委託業者さんと打ち合わせをする予定です。

学生の中には、先輩から代々引き継いだ伝統を守ろうという気持ちと、効率的に改革しようという気持ちとがあり、1年生から3年生まで集まって話し合いながら試行錯誤しています。引き続き、学生の主体性を尊重しながら、快適な寮生活が送れるよう、バックアップしていきます。（教務主幹・坂上 美智子）



寮の駐車場に工事関係者用のプレハブが設置されています

## □■ 学院行事等のお知らせ ■□

- ◆ **学院運営適正化会議** 7/4（再発防止対策の取組スケジュール、具体策等について）  
会議資料等は今後、道庁（医務業務課）ホームページにも掲載を予定しています。
- ◆ **オープンキャンパス** 7/23（学生自治会に当日の運営ボランティアを依頼しています）
- ◆ **保護者面談** 8/1～2（すでにご案内していますが、ご都合がつかない場合はご連絡ください）
- ◆ **夏期休暇** 8/1～8/26

通信の感想をお待ちしています！（8/21まで受付）⇒⇒



北海道立江差高等看護学院 通信

第6号【令和4年7月20日】

— 発行 —  
北海道立江差  
高等看護学院

## 学院長からご挨拶

いよいよ夏本番を迎え、より一層ご清栄のこととお喜び申し上げます。雨が多かった6月が過ぎ、学院の中庭は、遅咲きのツツジとあじさいが見頃です。裏の山林では鳥のさえずりが賑やかで、エソユキウサギも時折、敷地内に現れ、改めて、恵まれた自然の中にある学院であることを実感しています。実習室から海が見える看護学校も珍しいのではないのでしょうか。

さて、学院運営も四半期を過ぎ、ハラスメント再発防止対策も着実に進めています。4月にはじめた「ほめ活」は、5月74枚、6月108枚のほめカードが集まり、参加する学生が増え取組を楽しむ雰囲気も感じられるようになりました。一方、5月に実施した学生アンケートでは「私生活への干渉がたまにある」との回答があり、速やかに職員研修を実施し対応の留意点を確認しました。今後とも、学生の思いに寄り添い、早期の改善に努めてまいります。6月には学生募集に向け複数の高校を訪問しましたが、ハラスメント報道により受験を取りやめたという事例もあり、改めて、再発防止の取組をPRし信頼回復に努めることが必要だと感じたところです。また、7月の学院運営適正化会議でもアドバイザーの先生方から様々なご助言をいただきました。引き続き、学生が伸び伸びと安心して学べる環境づくりを進めるとともに、新たな学院の様子も積極的に発信していきたいと思っておりますので、お気づきのことなどありましたらお知らせください。（学院長・石谷 絵里）



中庭のあじさいとエソユキウサギ

## ■□ 学院生活・ハラスメントに関する学生アンケート結果報告 □■

学生満足度の向上、ハラスメントの未然防止、早期対応に向けて、学生アンケートを実施しました。

実施時期 5/23～29 回答数29人（78%）	
【1】学院生活が充実している（楽しい・まあまあ楽しい）	19（65%）
【2】自分自身に満足しているか（そう思う、どちらかと言えばそう思う）	14（48%）
【3】自分が役に立たないと感じるか（どちらかと言えばそう思わない、そう思わない）	13（45%）
【4】今の自分が好きか（そう思う、どちらかと言えばそう思う）	12（41%）
【5】言葉の暴力と言えるようなひどい非難叱責を受けた	ない
【6】事実無根のうわさを流された	ない
【7】私生活に干渉するようなことを言われたりされた	たまにある1
【8】教育・研究とは関係ないと思われる私的な用件を命じられた	ない
【9】非常識な時間に実験や研究を命じられたり呼び出されたりした	ない
【10】学業・研究・業務等を妨害するような言動を受けた	ない
【11】学業・研究・業務等に関して自分だけ不当な扱いを受けた	ない
【12】容姿・年齢・交友関係等に関して、執拗に聞かれたり、話題にされたりした	ない
【13】ハラスメント相談員を知っている	21（72%）

【7】の1件は「軽微、一過性のもので相談しなかった」とのことでしたが、改めて学内で研修を実施するとともに、相談窓口の周知に努めています。今後も定期的にも実施していきます。



## <1年生>

入学から3か月が経過しました。6月には個人面談が終了し、学習面や生活面のリズムが整い、少しずつではありますが学院生活に慣れてきた様子に安堵しております。空き時間を利用し、クラスでバレーボールを行ったり、地域でのボランティア活動にも積極的に参加してくれています。江差町の魅力も感じ始めた頃でしょうか。また、4月にサイズ合わせをしたユニフォームも届きました。これから本格的に看護技術や知識を身につけていくことを楽しみに、袖通しをしております。

講義が終了した科目の試験もスタートし、単位取得に向けて、それぞれの学生が目標点数を掲げながら試験勉強に励んでおります。科目数の多さや範囲の広さにとまどう声も多く、週末には自己学習用の問題プリント配布やグループ学習、自己学習状況の把握などを行いながら、支援していきたいと考えております。



新しいユニフォーム

学生たちのモチベーションの高さに、日々教員も刺激を受けています。夏期休暇となりますが休暇明けには多数の試験科目が控えています。計画的な学習スケジュールを立て、リフレッシュと学業の両立をはかってほしいと思っております。

1年生担当：楠原 千景

## <2年生>

6月20日から7月6日まで、待ちに待った「成人看護学実習Ⅰ」が行われました。実習前から、技術練習に一生懸命取り組む姿に、看護学生としての意識の高さを感じております。また、多くの学生は慣れ親しんだ江差町から、函館市内へ移動し実習に臨みました。

実習施設だけでなく下宿の生活にも適応しなければならず、大変であったと思います。しかし、寮生活で培った社会性は素晴らしいです。下宿生活に適応しているところか、Enjoyしていたと言っても過言ではないでしょう（写真を見せてもらいました。お部屋もきれいで、お食事豪華でした。）。

実習中は、奮闘しながらも、患者さんの病気だけでなく生活背景から、何を大切に生きてきたのかを考え関わる事ができていました。患者さんからは、「あなたがいてくれて良かった」「あなたがいなくなったらどうしよう」など、看護学生にとって最高のGiftを頂き涙ぐむ学生もいました。実習がとても充実していたようで、「実習が楽しかった」「充実していた」「患者さんのおかげ」など、嬉しい言葉も多く聞くことができました。

クラスは、実習での達成感もあり、とても明るい雰囲気です。病気という苦しい状況の中、受け持たせていただいた患者さんに感謝し、これからの学習に主体的に取りくめるよう引き続き支援して参ります。

2年生担当：臺坂 恵子



## <3年生>

7月に入り、5月から始まった各論実習も中盤を迎えております。各論実習は、全部で6教科を、それぞれ約3週間の期間で実施しております。雨の日も多く不安定な気候の中、それぞれの実習先で患者さんと出会い、コミュニケーションを通して患者さんの気持ちに寄り添い、看護の必要性を考えて援助しており、多くの学びを得ていることと信じております。

臨地実習での経験は、看護師になってからの看護師人生を支えてくれる出会いとなることでしょう。また、国家試験の状況設定問題では、臨地実習の経験をふまえて解けるという問題も出題されます。いずれにしても、とても重要で貴重な体験となるのが臨地実習です。実習は10月中旬まで続きますが、既習の知識を存分に活用し、楽しい実習にしてほしいと思っております。

臨地実習の合間では、就職活動も行っており、また、楽しいはずの夏休みも、国家試験対策で問題集と睨めっことなることなのでしょう。この時期の3年生は、とても忙しく、とても大事な時期になります。困ったときには、ひとりで悩まず一緒に考えながら、この時期を乗り越えていけるよう支援していききたいと思っております。

まずは、3年生が、無事に臨地実習を終了できますよう、温かく見守っていただきますようよろしくお願いいたします。

3年生担当：遠藤 直美



母性看護学実習のひとつま（学生が産婦役となってロールプレイ）

和歌山から

バレンシアオレンジが届きました!

開学当時（平成10年）にお世話になった非常勤講師・森誠治先生（東京都）から、バレンシアオレンジの差し入れをいただきました。珍しい国産のバレンシアオレンジ、冷やして、学生・職員みんなでいただきました。甘酸っぱくて爽やかで、とっても美味しかったです。遠くから、応援してくださっている方がいると知り、とても励まされたひとときでした。



## スクールカウンセリングについて

～ 教員と連携し学生の皆様の  
学生生活をサポートします ～

### ●日程

月	対面（14:30～17:00）	オンライン（16:30～18:00）
9月	9/1（木）	9/15（木）

### ●原則、予約優先ですが、空いていれば予約なしの相談もできます。

予約専用メール [sc.soudan@gmail.com](mailto:sc.soudan@gmail.com)

① 氏名、② 学年、③ 連絡先 Tel、④ 希望日時、⑤ 希望方法、⑥ 相談内容



スクールカウンセラー  
すお  
諏訪先生